

Okayama Research Park Incubation Center

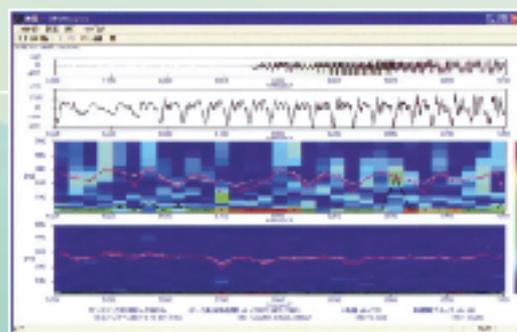
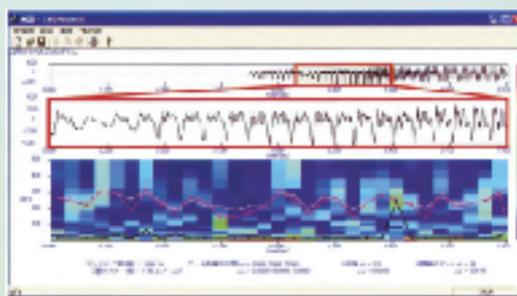
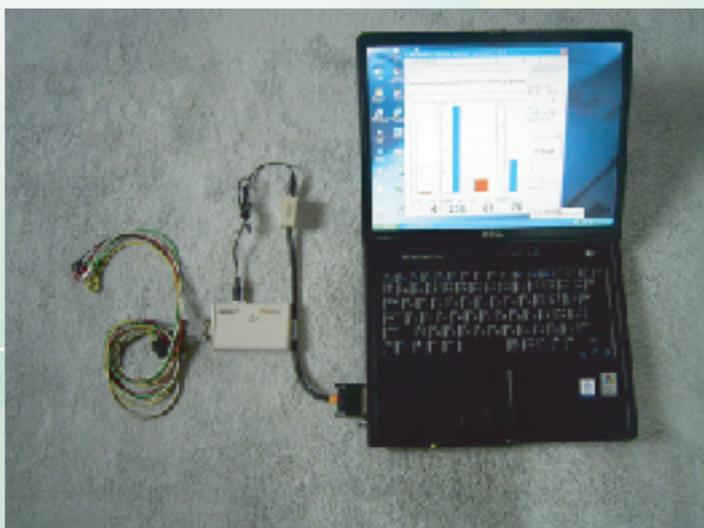
# ORICNEWS

# 翔飛

ひし  
よう

入居企業紹介

## 医療と福祉の現場をサポート



解析表示画面

### 筋電図モニタリング

～被験者の筋活動を、筋の量（積分）と質（周波数）でリアルタイムに解析～

#### 特徴

EMGの解析を、量的側面（積分筋電図解析）と質的側面（短時間フーリエ解析）で完全自動化し、リアルタイムに表示します。



## メディエリアサポート企業組合

詳細は7ページをご覧ください

### － 本号の主な内容 －

- 巻頭言
- 研修・交流会活動
- 入居者の活動・トピックス
- 入居企業紹介
- イベント案内
- 新入居者の紹介

# No.17 (2007.7)

## 「ORICに期待すること」

日本貿易振興機構（JETRO）

岡山貿易情報センター

所長 上岡 美保子



ジェトロでは米国5ヶ所（サンノゼ、サンフランシスコ、シカゴ、フィラデルフィア、ボストン）にインキュベーション施設を持ち、IT、バイオ、ナノテク等ハイテク分野のベンチャー企業や起業家精神を持つ個人を対象にビジネス展開をサポートするプロジェクト「ベンチャー・インキュベーション in USA」を実施、ビジネス立ち上げの拠点とサポートを無償提供している。

サンフランシスコでは2006年5月よりB-Bridge International, Inc社（サンフランシスコ）と協働で本社の中にインキュベーション施設を開設し運営を開始した。同社社長の榎本博之氏は神戸で震災のあった年に大手繊維メーカーを退職して渡米。バイオの試薬の8割が米国製で、バイオ分野では日米の間に大きなギャップがあることを痛感した同社長は、日本の優秀な研究技術を世界に知らしめ、更に日本と世界をビジネスで結びつける「架け橋（ブリッジ）」となることを自らのミッションとし、「がんばれ日本」と日本のチャレンジャーにエールを送る。「日米のビジネスギャップを埋め、最速で最大のビジネス発展を促すにはMade in USA by Japaneseがベスト」と日本製品の米国市場参入の新たな手法も示唆する。

サンノゼ市のインキュベーション施設であるUSマーケット・アクセス・センターのチャック・エリクソン所長はシリコンバレーの人口は4割が米国以外の出身者でかつ才能を持った人

材が世界中から集まってくるが、競争の激しさからか日本人起業家は少ないことを指摘する。しかしシリコンバレーには、リスクを受け入れる冒険心を地域全体が持っていて、失敗を許容し、リスクを負うことを奨励する独特の風土があり、失敗を分析することにより教訓が得られること、失敗によりコーチやメンター等相談できる人脈作りに結びつくこと等シリコンバレーへの挑戦をエンカレッジした。

一方、日本ではまだ失敗に対する社会の許容度が低く、失敗した当の本人が再チャレンジのため立ち上げられる制度やサポートが少ないと言わざるを得ない。幸い、ここ岡山には優れた研究環境と専属の優秀なマネジャーを配置した岡山リサーチパーク インキュベーションセンター（ORIC）があり、地域の人材育成に貢献し、新技術や新製品が生み出される施設・支援を提供している。海外のいろいろなインキュベーション施設を訪問して考えさせられるのは、その施設がいかに強力、かつ細やかなサポート体制を持っているかということ。新製品を生み出す時、販路開拓時、万が一失敗して再挑戦に挑む時、マネジャーが果たす役割は大きい。ソフトとハード、日本流、海外流のサポートの違い等いろいろな面から見て改善できるところはより向上させ、岡山のベンチャーが世界に羽ばたける孵化機能をますます高められるよう期待する。

■ 平成19年3月度ORIC交流会及びセミナー

● 入居企業紹介

『全国のコンビニのコピー機を活用した新聞号外の配布システム及び  
当システムを利用したフリーペーパー発行システムの研究・開発』  
(株)内外総合通信社

代表取締役の延原誠氏より、同社の紹介がありました。設立は平成17年4月で、NHK・地上波及びBSデジタル放送民法全局の番組解説、新聞小説、全国の地域・観光情報などの記事配信業務が主たる事業です。

新たに、新聞の号外を全国のコンビニ設置コピー機で販売するシステムを共同開発しました。



一部の地域でしか入手できなかった号外を日本全国どこでも24時間365日発行でき、時間・物流コスト・配布人員の問題を解決した画期的なシステムです。アナログと最新IT技術を組み合わせ、新たなサービスの実現を目指しており更なる発展が期待されます。

● ゲスト企業紹介

『我が社のヒト・モノ・カネとは』 (株)トライテックス



同社は平成4年に設立、資本金163百万円、従業員約50名、売上1,470百万円(平成18年4月期)と急成長した自動車業界向けアプリケーションソフトの開発・販売会社です。18年10月にリサーチパークに本社を移転しています。専務取締役人事部長大橋貴司氏から同社の事業紹介に続き、「事業とは夢を描いてそれを形にする事」、「組織では人のチームワークが大切」、「技術力は市場が評価する」等、同社の経営の考え方を熱く語って頂きました。

● ゲスト機関紹介

『(財)岡山県産業振興財団の事業紹介』  
(財)岡山県産業振興財団

(財)岡山県産業振興財団から同財団の組織体制、業務内容についての説明があり、「岡山県の産業振興のための経営・資金人材・技術・情報等総合支援をするのでお気軽にご活用下願いたい」とのお話でした。



● ORICセミナー

『資本政策の考え方と手順』

山口大学大学院技術経営研究科 松浦良行教授(当時、助教授)から表題について講演が行われました。資本政策は①企業の成長戦略とそれを実現する投資計画の実行②創業者利得の獲得③安定株主確保による継続的活動等を目的とした資本の調達ステップであること。そして、資本政策を考えるに際し、VCの投資、取引先の出資、金融機関や傘下VCの出資、従業員・身内の出資を仰ぐ場合に、各ケースにつき、株主構成に関する注意点が説明されました。また、

企業統治上、株式保有割合は2/3超が最も好ましいが、最低でも普通決議案の実行が可能な1/2以上を確保して外部資金を受入れることが重要であること、更に、創業当初から資本政策の青写真を描いておかないと、死の谷局面などで、資本構成上問題があっても出資を仰がざる得なくなるという問題が生じやすいことに留意しておく必要があることなどが説明されました。その他実例を上げた解説を含め参加者から大変有益であったとの声が多く聴かれました。

● ゲスト企業紹介

『我が社の経営革新計画』 —平成18年度岡山県経営革新大賞受賞企業からのメッセージ—

■ 倉敷レーザー(株)

「我が社の経営革新計画」というテーマで難波社長にお話頂きました。昭和40年に若くして創業した木材企業時代の貸倒れや工場火災などの苦難を乗り越えて、昭和58年に当時まだ一般的でないレーザー加工機を導入して、異分野である金属加工業を始められました。ゼロから技術を学び、新しい技術や仕組みを工夫しながら、売上高約40億円の企業に育てられた経緯や経営に対する考え方についてご紹介いただきました。

社長がこれまでの経験で気を付けている事として「①思いついたらまず絵(計画・構想)を描くこと。すると、やるべき事はそこから見えてくる②他社に画期的なものでなくても差別化

していくことができるので、少しでも他社に勝る工夫(アイデア)を出し続けることの重要性」を強調されました。事業を起こし、拡大された起業家に共通して見られる、確固とした理念・経営スタンスが強く感じられ、創業後間もないベンチャーの経営者に大変有益な企業紹介となりました。



● ゲスト機関紹介

『経営革新計画申請とは』 —承認されると様々な支援の可能性が出てくる経営革新計画に挑戦しよう—  
(財)岡山県産業振興財団 経営支援部 中小企業支援センター



同センターの松田マネージャーから、『経営革新計画申請』についての説明がありました。この制度は、中小企業新事業活動促進法に基づき、中小企業者等が行う創意ある発展への取組に対し、経営革新計画の承認を行い、様々な支援施策を講じることで、経営革新の取組をお手伝いする制度であることや、申請の方法や、この制度で得られるメリット、相談の窓口などを具体的に示して頂きました。

● ORICセミナー

「中小企業における税務上の留意点について—法人税、消費税を中心として—」

ORIC顧問税理士小川大助氏より平成18年度税制改正について以下に焦点を当てて解説して頂きました。①「定期同額給与」②「特殊支配同族会社の役員給与の損金不算入」③「消費税の還付と課税事業者選択届出書」等です。①では、役員給与を変更する場合には損金不算入となるケースがあるので要注意。②では、実質的な一人会社のオーナーへの役員給与について「経費の二重控除」に相当する部分(給与所得控除相当分)の法人段階での損金算入が制限された(否認される)こと。③では消費税還付のためには課税期間開始前に税務署の届け出しておく事が要件。また、届出書用紙を間違えないように

注意が必要等具体的な手続きについても詳細なアドバイスがあり、参加者からとても判り易かったとの感想が寄せられました。



● ゲスト機関紹介

(1)岡山大学産学官融合センター

「岡山大学の産学官連携紹介」の表題で、岡山大学産学官融合センターの藤原貴典准教授から紹介していただきました。岡山大学は地域との関わりの中で、地域を育て、地域に育てられる大学を目指し、産学官連携を推進しています。また、大学での相談が可能なものとそうでないものがあり、事前に企業側で下調べをしておくことの必要性など、大学への上手な相談の仕方を、具体例を交えて、詳しく説明して頂きました。

写真 左 岡山大学産学官融合センター 藤原貴典氏  
中 (株)日本ステントテクノロジー 岸本卓氏  
右 平林金属(株) 平林久一氏



● 入居企業紹介

(2) (株)日本ステントテクノロジー

岸本卓研究員から、ステント開発の状況について説明がなされました。狭心症・心筋梗塞は心臓の血管の狭窄で血が流れなくなることによって発生しますが、この治療のために、血管に導入し、狭窄部を拡げて血流を確保するのがステントです。同社ステントは、柔軟性と剛性のバランスに加えコーティング技術に強みを持っており、現在動物実験による6ヶ月の安全性試験もクリアし、協力企業と連携して、技術確立を行っていること、及び目標は、「世界トップの品質で世界市場を制圧すること」と力強く説明されました。

● セミナー・講演

『平林金属の50年と私 —事業拡大と私の取組み、経営理念—』

平林金属(株)代表取締役社長平林久一氏から『平林金属の50年と私—事業拡大と私の取組み、経営理念—』と題して講演を頂きました。同社は、家電リサイクル法への積極的取組み、地球環境保護・循環型社会への貢献により、平成16年度岡山県第一回経営革新大賞を受賞、平成18年には、天皇皇后両陛下が主催された春の園遊会にご夫妻でご招待を受けられています。また、永年スポーツ活動や非行防止運動を通して青少年育成にご尽力されています。「創業当初はとも苦しい時期もあったが、自分の体験を通し

て、今、言える大事なことは、①信用が一番大事である。約束は必ず守ること②事業に対して目標、夢を持つこと。同社は日本一コストの安いリサイクル事業を目指している。③労働力確保のため従業員の福利厚生に意を用いること。同社は社宅・寮の建築など福利厚生に努めている。④会社経営だけでなく地域・社会への貢献を行うこと。社長は青少年育成にも努めている。」など、自ら実行されてきた事業の取組み方、経営理念について迫力と説得力のあるお話を頂きました。

● リサーチパークバーベキュー大会

5月度のORIC交流会終了後、ORIC中庭にて、岡山リサーチパーク立地企業等連絡協議会と共催でバーベキュー大会を開催しました。朝からの雨も開始時刻には止みバーベキュー日和となり、ORIC交流会参加者及びリサーチパーク立地企業の社員など、約100人が集って焼肉に舌鼓を打ちながら大いに懇親を深めました。バーベキュー大会は、ボーリング大会、テニス大会などとともにリサーチパークの催しものとして、リサーチパーク企業の社員交流にも役立っています。



## ■ フォーカスセミナー 「知って得する社会保険・労働保険の勘どころ」

去る4月3日、栗坂節子社会保険労務士を講師として第1回目の「フォーカスセミナー」「知って得する社会保険・労働保険の勘どころ」を開催、入居者を中心に10名が参加しました。

このフォーカスセミナーの目的は、少人数でも必要な入居者ニーズにも応えたいというものです。経営者は雇用に関して社会保険や労働保険は避けて通れない事項です。これらの概要とポイントに加え、まさに知って得する点を解説頂きました。



## ■ 韓国商談会 「日本ハイテク技術導入説明会および商談会」

(株)バイオ・タキソール他が参加

去る5月14、15日に韓国のソウル市およびウルサン市において、「日本ハイテク技術導入説明会および商談会」が開催され、岡山県から、(株)バイオ・タキソールの浜田社長(ORIC入居中)と(株)アンテックの末石社長(ソウルのみ参加)がプレゼンテーションと商談を行いました。この商談会は平成17年12月に韓国技術ベンチャー財団、(財)岡山県産業振興財団、当ORICの3者間で取り交わした業務提携に基づき、昨年9月に業務協力覚書を締結した「日・韓技術マーケティング支援事業」の一環として参加したものです。ソウル会場では、

朝9時30分から夕方4時30分まで、プレゼンテーションと商談が続き、浜田社長、末石社長とも、ほとんどとぎれなく、昼食もそこそこに来訪者と商談を交わすなど、非常に盛況でした。ウルサン市は、日本では馴染み薄ですが、現代自動車や現代造船の工場群を擁し、石油化学コンビナートもあり、水島コンビナートと似た産業構成の百万都市です。この商談会を機会に、韓国企業との新しい取引が生まれるなど、ビジネスチャンスの拡大が期待されます。



## 入居者の活動・トピックス

### ■ オンリーワン、ORICより5社

去る6月中旬、他に真似のできない独自の優れた技術をもつ企業育成のための、県の補助制度「岡山発！オンリーワン企業育成支援事業」に17社が選ばれ、ORICから(株)光フィジクス研究所、(株)JAPAN MAGGOT COMPANY、(有)アイ・エス・ティ、メデ

イエリアサポート(企)、ノマディックバイオサイエンス(株)の5社が採択されました。補助率は1/2以内、最高450万円が研究開発関連の経費に活用できます。

## ■ 「JANBO Awards 2006 ビジネスインキュベーション大賞」受賞

6月8日、秋葉原コンベンションホールにて JANBO Awards 2006の表彰式が開催され、ORICが日本新事業支援機関協議会（JANBO）からビジネスインキュベーション大賞を受賞いたしました。この賞はビジネス・インキュベーション活動により新事業創出に成果を上げている優れた活動が対象になっています。次の3つの賞が1組となって表彰されました。新事業創出機関賞としてORICが、新事業創出支援賞として岡山県工業技術センターの窪田真一郎氏、（財）岡山県産業振興財団の横田尚之氏とORICの松尾の3名が、新事業創出賞として（株）日本ステントテクノロジーの山下修蔵氏が受賞いたしました。表彰式では、受賞者一同、今回の受賞はリサーチパークに立地する3つの支援機関の連携と地域

の関係機関の皆様のご協力を頂いた賜ものとして、今後一層の新事業創出に取り組む決意を語っていました。



授賞式の様子 堀場会長とともに

## 入居企業紹介

### メディアエリアサポート企業組合



代表者 国里 光博  
連絡先 岡山市芳賀 5303 ORIC 218号室  
TEL 086-286-9355 FAX 086-286-9244  
URL <http://mediarea-support.com/>  
E-mail [medical@mediarea-support.com](mailto:medical@mediarea-support.com)

#### 創業の経緯

同組合は、国里代表と尾崎理事を中心とした医療機器の製造および販売を行っている企業です。かつて二人が勤務していた国内の大手医療機器メーカーが外資系企業による買収にあい、取扱製品の営業停止などの逆境に置かれる中、従来の顧客へのサービス継続を決意して、独立された経緯があります。

#### 開発の背景

現在は、当時からの得意分野である筋電計を小型軽量化し、安価に提供することで、研究センターだった筋電計の従来の用途以外に、介護・リハビリテーションの現場での使用や、スポーツトレーニング向けにも広く普及させることを目指しています。

筋電計は、心電計や脳波計と同様に、人の体の表面を流れる電流を感知し、増幅することで、筋肉の活動状態を測定する装置です。今、介護

の現場ではお年寄りを寝たきりにしないように、予防的な筋力トレーニングが取り入れられていますが、そのトレーニングの成果は、熟練した理学療法士や作業療法士でないと適切な評価が難しいという状況です。しかも、それらの専門家たちの絶対数は不足しているため年間9,000人以上が新規に養成されている現状です。そのような状況の中、同社の小型で安価な筋電計があれば、リハビリ現場での使用が容易になり、適切な評価ができるデータを若い専門家に提供することが可能になります。心電計や脳波計データが専門家の解釈が必要なように、筋電計もデータ解析が必要です。

#### 開発内容

この解析について筋電研究を進める吉備国際大学の加藤先生の協力を得て行っています。更に、解析性能の向上のため、ウェブレットという新しい解析手法を導入して、より実用的な筋電計の開発を行っています。また、筋電計と解析用パソコンをケーブルを利用せずに、無線で結ぶことで、自由な活動状態の測定を可能にするなど、従来にない新しい筋電計システムの提供で、事業成長が期待されています。

## ■ ITソリューション in ママカリ

出展及びプレゼンテーション企業を募集しています。

### 【開催目的】

大都市圏と地方のIT化格差が広がっている中で、中四国地方の活性化を図るために、情報交換の場と専門家による問題解決の場を提供するもの。

### 【主催】

ITソリューションフェア in ママカリ実行委員会

- ・(社)システムエンジニアリング岡山
- ・日本情報振興協同組合(JIA)中四国支部
- ・(社)コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)

### 【開催日時】

平成19年10月17日(水)、18日(木)  
 17日/13:00~17:00 ビジネス交流会  
 18:30~ 懇親会  
 18日/10:00~17:00 講演会、セミナー、展示会

“発見と出会い”

IT活用で活力を取り戻そう。  
私達が応援します！

【開催場所】 ママカリフォーラム(岡山ロバソンセンター)

### 【内容】

セミナー&プレゼンテーション  
 ソリューション展示、ビジネス交流会  
 ユーティリティコーナー

【出展費用】 インキュベーション施設入居企業・SOHO

31,500円(税込み)

一般企業 52,500円(税込み)

### 【問合せ先】

(社)システムエンジニアリング岡山 事務局 雨坪(アマツボ)  
 Tel.086-286-9653 メール.hamatsubo@optic.or.jp

### 19日同時開催 『岡山情報心』

講演1 『仮想空間のこれからの可能性』

~Second Life~

講演2 『次世代ネットワーク(NGN)』

## 新入居者案内

平成19年3月に第17回入居審査会が開かれ、厳正なる審査の結果、下記1社が新たに入居しました。

入居内定企業名 代表者	事業の概要	所在地	分野
(有)SEAM化学研究所 代表取締役社長 和田 富美夫	・表面化機能化材料の合成 ・医療機器表面機能化の受託開発と特許権、実用新案権等の工業所有権のライセンス ・濃度、騒音、振動、放射線等の環境分析の受・委託とコンサルティング	岡山市	化学

## 入居希望者募集中！！

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

### ■施設使用料・空き室状況

施設区分	面積	使用料の月額	部屋数	空き室数
研究室 小	約 25 m <sup>2</sup>	45,000 円	22	7
研究室 大	約 50 m <sup>2</sup>	88,000 円	30	12
試作開発室	約 100 m <sup>2</sup>	175,000 円	6	2

プレインキュベーション室	5m <sup>2</sup> /1ブース	5,000 円
--------------	-----------------------	---------

### ■次回募集

原則として3ヶ月毎に入居審査会を開催しています。今回は8月末までに事業計画書を提出された方を対象に、9月中に開催の予定です。

※プレインキュベーション室の募集は随時受け付けています。

創業5年未満の企業は入居後3年間は1/2に減免する制度があります。